

地域から信頼され愛される病院へ

院長 山田 信行

昨年は3月11日に東日本大震災、福島第一原発事故、9月には台風12、15号による災害、直近では今年5月6日に茨城・栃木県で発生した竜巻による大きな被害がありました。未だ避難生活を強いられている方々をはじめ被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げますとともに一刻も早い復興を願っております。

光陰矢のごとしと申しますが、平成24年度診療報酬と介護報酬の同時改定がスタートしてあっという間に3か月が経ちました。今回の改定はこれまでのような単なる点数の改定ではなく、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になり社会保障費が急増するといわれる2025年のあるべき姿を見据えた上での「社会保障と税の一体改革」の一環としての新しい保健・医療・福祉の提供体制づくりの第一歩として位置づけられており、自院が置かれた地域性と自院の実力を考えあわせて、進むべき方向の選択を迫られるメッセージ性の高い内容です。当院は何を取り入れ、何を捨てるか、決断と自己責任を迫られています。中・長期的な視点に立って十分に議論して決めて行かなくてはなりません。人口4万4千人の井原市にあって施設資源も人的資源も極めて少ない（人口10万対医師数：95.6人、一般病床数：264床）環境下で当院の担わざるを得ない部門はあまりにも多く、地方の小規模病院でありながら、超急性期と高度医療を除いて、軽い急性期から亜急性期、慢性期、在宅医療までと非常に幅広い範囲をカバーせざるを得ません。これを常勤医10人で行わなければならない、医師の負担を如何に軽減していくかが最重要課題です。

この対策の一つとして今年度に取り入れたことは、医師以外の副院長ポストを増やしたことです。小さな病院であっても医療安全を始め、行わなけ

ればならないことは大病院と同じようにあります。規模の小さな病院こそ、医師の負担軽減のために医師以外の副院長ポストを設けて、医療の質の担保をすべきと考え、平井前看護部長に、その任をお願いしました。医療安全、地域医療連携、訪問看護、広報、年報、情報収集などを幅広く担当してもらいます。この病院広報誌をグレードアップしたのも、その一環です。また、4月から17名の新入職者を迎えました。少しでも質の高い医療を継続的に提供できるようにして行きたいと思えます。

当院のミッションは「地域住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する」ことで社会に貢献することであり、ヴィジョンは「いつでも安心してかかる身近で愛される急性期病院」です。本年度のスローガンは「医療の標準化」と「断らない病院」です。救急医療は医療の原点であり、信頼の原点でもあります。救急車の受け入れ件数は、平成22年度の520件から平成23年度は591件へと着実に増加し、過去6年間では最大になり、成果は上がってきています。職員一人一人が、常にホスピタリティー（思いやりの心）をしっかりと心に抱き、自らに与えられた役割と責務は何かを考え行動していきたいと思えます。「自分たちで考え実行する医療」を実践することで、この地域の住民にとって、なくてはならない愛され続ける井原市民病院になるようにしたいと思いますので、今後とも、ご指導・ご協力をなにとぞ宜しくお願い申し上げます。



就任のごあいさつ



看護部長
鳥越 こずえ

4月1日、看護部長の辞令をいただき戸惑いと、これまで以上の責任の重さを感じています。看護部は4月に8名（看護補助者1名を含む）の新人職員を迎え、総勢144名でスタートしました。山田院長のもと、病院のミッションとビジョンを踏まえ看護職一同努力してまいりたいと考えています。

昨年度は、「看護部も病院経営へ参画」を目標とし、BSC（バランス・スコアカード）の活用により看護職員のコスト意識を高め、節電や物品管理により当院の収益改善に一定の成果を果たすことができました。この取組につきましては、今後も引き続き鋭意継続してまいります。

また、本年度は看護の質に関する強みと弱みに注目し、質を向上するために何をすべきか、各部署、各委員会、各個人、知恵を出し合い具体策を検討してまいりたいと考えています。

看護部では本年度の目標を 1、安心で安全な看護を提供する 2、看護業務の標準化を図る 3、専門知識を高め看護実践に生かす 4、病院経営に積極的に参画する としています。

今後も「地域住民に愛される看護部」「看護職がいきいきしている看護部」を目指してまいります。皆様のご支援をお願いできれば幸いです。



医療技術部次長
兼薬剤科長
井口 達也

4月より医療技術部次長兼薬剤科長に就任しました井口と申します。二十八年の病院勤務と三年の保健所勤務をしてきました。病院では、一般調剤業務の他、がん薬物療法関係・救急医療関係・医療安全対策関係などを、また保健所では、食中毒・感染症関係を実務経験してきました。近年の病院は、医師や看護師だけではなく、コメディカル部門の充実が問われるようになりました。病院薬剤師においては、調剤室内の業務だけではなく、病棟や在宅医療現場での薬剤情報提供や服薬指導といった患者や他の職種から見える薬剤師を期待されるようになっていきます。他の医療技術部においても、同様の期待が寄せられていると思います。それを実践していくことにより『チーム医療』が成り立つものと考えています。微力ではありますが、山田病院長のもと、精一杯努力する所存でありますので、何卒よろしくご指導をお願い致します。

新人の紹介

名前 担当科 ①抱負 ②趣味



西山 直良 看護師
①今までの経験を活かしながら、新しい知識を沢山吸収して“さりげなくカッコイイ看護師”を目指します。
②ピアノ演奏 片づけ



増田 稚子 看護師
①早く一人前になり、信頼ある看護を提供できるよう頑張ります。
②お菓子づくり・食べること



井森 晶子 看護師
①新しい環境や仕事に1日も早く慣れて、楽しく仕事ができるようがんばります。
②よく食べてよく寝ること。



石村 美佳 看護師
①仕事と子育てを両立し、いいバランスで長く働きたいと思っています。
②よさこい



原田 奈々 看護師
①初心を忘れず精一杯取り組んで、自分の役割を考えチームの一員として看護に携わる。
②おつりを計算して、500円玉貯金です（笑）



原田 雄平 看護師
①確実な業務を習得し環境になれる、同じことで何でも注意を受けない
②たべる事（特に甘いもの）



福尾 美紗 外科看護師
①救急時の対応が的確にでき、業務に活かせるように頑張ります。
②カラオケ 銭湯めぐり



小車 翼 検査技師
①新しく入ったばかりで覚えることもたくさんありますが、若さとやる気で乗り切ります！
②ドライブ、食べ歩き、映画鑑賞、ランニング



田中 達也 検査技師
①これまでの経験を活かし、早く一人前になれるように頑張りたいです。
②ゴルフ、野球



和田 温美 リハビリテーション科 理学療法士
①毎日が勉強なので学んだことを生かし患者様の笑顔が見れるように努力していきます。
②スノーボード



田口 操 リハビリテーション科 理学療法士
①教えていただいたことを確実に覚え、日々自己研鑽し、知識・技術・人間性を高めたい。
②身体を動かすこと。スポーツすること。



長谷川 透 リハビリテーション科 作業療法士
①患者様が快適な生活を送れるよう適切な治療が提供できる作業療法士になりたいです。
②サッカー、スポーツ観戦



藤井 聖子 リハビリテーション科 作業療法士
①地域の方々の日常生活に必要な作業療法をよりよく提供できるように日々努力する。
②ジョギング、ディズニーリゾートで遊ぶこと。



藤井 玲子 リハビリテーション科 言語聴覚士
①患者さんやスタッフの皆様へ信頼していただけるようなSTになれるように頑張ります。
②映画鑑賞。



住田 裕子 薬剤師
①患者様やスタッフから頼りにして頂ける薬剤師になれるよう、努力していきます。
②ドライブ、旅行



音成 直子 医事課
①過去の仕事の延長ではなく、越えられるように努力したいです。
②なし

患者様に笑顔でお帰りいただけるよう頑張ります。

はじめまして・・・

「井原市民病院 訪問看護センターまいづる」です

訪問看護センター長
西江 加代子



本年4月に井原市民病院「訪問看護センターまいづる」が新設され、6月1日から訪問看護が開始となりました。急速に迫りくる超高齢化社会に対応するため、国は、患者さんの療養の場を病院施設から在宅での療養へと政策を転換しています。井原市においても自宅で療養したいと希望される方が60%を超えており、当院としても市民の皆様のこうしたご要望にお答えするため開始を決定しました。

当院で行う訪問看護は、当院をかかりつけとされ当院の医師が主治医である方を対象に提供させていただきます。サービスの主な内容は、医師の指示のもと「病状の観察」「身体の保清」「褥創(じょくそう)予防・処置」「排泄の管理」「医療機器の管理」「日常生活の指導やリハビリテーション」「看取りまでの援助」などの看護活動を行い、病気や障害があっても住み慣れた自宅で、ご利用者やご家族が安心して在宅療養ができるよう医師と連携をとりながら3名の訪問看護師が定期的に訪問し支援させていただきます。

訪問看護事業の実施にあたりましては、他の訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所・ケアマネジャーの皆様と連携を図りながら進めてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

リハビリテーション科のご紹介

リハビリテーション科では平成24年4月から職員が増え、理学療法士8名、作業療法士6名、言語聴覚士2名、歯科衛生士1名、総勢17名となりました。



人員も充実してまいりましたので6月からは入院患者様に1年365日、絶え間ないリハビリテーションを提供いたします。患者様が再び住み慣れた地域で「いきいき」と暮らせるように、そして自宅で見慣れた景色を眺めながら安心して暮らせるように、「もし自分の家族であつたら」という気持ちを抱きながら患者様ひとりひとりの心に残るリハビリテーションを心がけ全力で取り組んでまいります。

心大血管リハビリ



回(火・木)、心電図監視下での運動療法を行っています。

理学療法

理学療法では病気や怪我、様々な原因で寝たきりなどの患者様に対して関節可動域運動、筋力強化運動、バランス練習、基本的な日常生活動作、歩行練習など、



運動機能を高め、家庭や社会への復帰を援助します。

作業療法



作業療法では理学療法に比べて運動、認知機能に対して、より具体的作業を取り入れた練習を行います。また入院患者様に退院後、より良く生活して頂くため、退院前に自宅訪問をさせていただき家屋環境の評価、手すり等の設置や福祉用具利用のアドバイスなどもしています。

言語聴覚療法

言語聴覚療法では失語症、構音障害等のコミュニケーション障害や、高次脳機能障害を対象とした言語訓練や摂食嚥下障害に対して摂食評価・訓練を行います。また平成24年1月より歯科衛生士が加わり、長期臥床患者様に対する口腔ケア、義歯の調整、歯科医との連携や診察補助を行います。



訪問リハビリ

訪問リハビリテーションでは介護保険に基づき井原市内全域をサービス提供範囲として通院困難な方への在宅支援を行っています。住み慣れた環境での日常生活動作の練習や歩行訓練、在宅での困り事に対するアドバイス等を行っています。



業務・経営改善に向けた取組と 今後の目標について

副院長 平井千枝子

井原市民病院では、平成23年度からバランス・スコアカード（Balanced Score Card）を導入し、全員参加型の経営システムの構築を進めました。

当院の経営方針を明確に示すとともに、その達成に向けた課題や優先順位を明らかにし、全職員が目標を共有し、組織としての能力を向上させることを目的としました。

バランス・スコアカードでは、当院の戦略を4つの視点（「財務の視点」「患者の視点」「業務プロセスの視点」「学習と成長の視点」）で整理し、バランスを取りながら課題に向けた取り組みを進めることにより、効率的な業務改善、経営改善を図ることができました。

平成24年4月には成果発表会を開催しましたが、実施状況の確認と併せ次年度の目標設定に繋がる内容でした。

平成24年度診療報酬・介護報酬同時改定については、2025年の超高齢化社会を見据えたわが国の医療政策の目指す方向が見え隠れする改定であり、その対応については、地域に求められる医療ニーズを的確に把握した上での、当院の医療資源、医療提供能力に基づく、中・長期展望に立った緊切の目標設定が求められました。

山田院長指揮の下、各部署参集によるプロジェクトチームを立ち上げることとし、検討にあたっては、SWOTを中心とした分析により、当院の「強み」「弱み」は何か、また、当院を取り巻く「機会」や「脅威」は何かを議論し、病院の目指す方向を模索しました。

平成24年5月7日、それまで積み重ねた協議の結果発表を全職員対象に開催し、医事課より改定についての説明を受けた後、山田院長より当院の目指す方向について次のとおり示されました。

■BSCの活用による主な成果

区分	戦略マップ	戦略的目標	主な成果
財務の視点		医療収益の増加 コスト削減	平均在院日数短縮 新規入院患者増 外来患者増 外来・入院患者単価の改善 診療・薬品材料費の削減 医療機器保守委託料削減
患者の視点		患者満足度・地域医療貢献度向上	接遇研修の実施 救急車搬入件数の増 他病医院からの紹介率の増 （※への逆紹介率の増）
業務プロセスの視点		医療事故防止 病院機能評価の活用 経営マネジメントの向上 広報活動	ヒヤリハット報告の活用 審査項目に基づく病院運営 BSCの浸透 広報担当設置
学習と成長の視点		職員満足度の向上 必要な人材の確保 会議の活性化	コミュニケーション 患者の視点に立つ提案 人材育成の制度化 人材評価の制度化 募集方法の制度化 人材採用の制度化 委員会等の定期開催

■新たな試みと目指すところ

- ・24時間巡回型訪問看護・介護（地域密着型サービス）
- ・DPC データ提供
- ・機能を強化した在宅療養支援病院（医療と介護の一体的提供体制）
- ・365日リハビリテーションの実施
- ・回復期リハビリテーション病棟
- ・高い重症度、看護必要度の維持
- ・退院支援計画書の作成とケア会議の必須化

年々広がる医療ニーズと深刻な医師不足を抱え、今回の目標設定の適否については一抹の不安もあります。また、短時間での対応であり十分と申せるものではありませんが、目標達成に向け、職員の共通認識のもとと一歩一歩前進するよう努力したいと考えています。



BSC成果発表会に寄せて

庶務課

井原市民病院では、平成23年度から院内バランス・スコアカード（BSC）による目標達成に向けた取組を推進しています。

4月25日（水）に各セクションのBSC成果発表会を開催しました。セクションが一丸となってBSCの目標に向けて努力し、結果を出すことで達成感につなげた、成果発表会で他セクションの取り組みを具体的に知

り、自分たちの取り組みと違った面を見つけることでコミュニケーションアップにつなげたいと考えました。

成果発表会では、100名以上の職員が出席する中、代表者17名によるプレゼンテーションが行われました。発表者は科長、看護師長を中心とする各部門のリーダーです。限られた時間での発表となりましたが、24年度の課題、目標設定に繋がることが期待できる内容でした。

23年度より、「職員一人一人のおもてなしの心を高め一歩前進しよう」をスローガンに、各部署がBSC（バランス・スコアカード）を用いた病棟目標を立案することになりました。私は、SWOT分析により病棟スタッフ一人一人から意見を聞き、病棟の現状把握と問題を分析しました。そして病院と看護部の目標を照らし合わせ、病棟目標を4つ設定しました。この目標を①財務②患者③業務プロセス④学習と成長の4つの視点で、戦略目標と具体的計画を立てました。スタッフ個人の目標もこのBSCから一つは取り入れるようにしました。

一年を振り返ると、病棟が一丸となって病院の使命に向かって成長できたのを実感しています。それは、この

BSCをいつも意識して努力できたからだと思います。

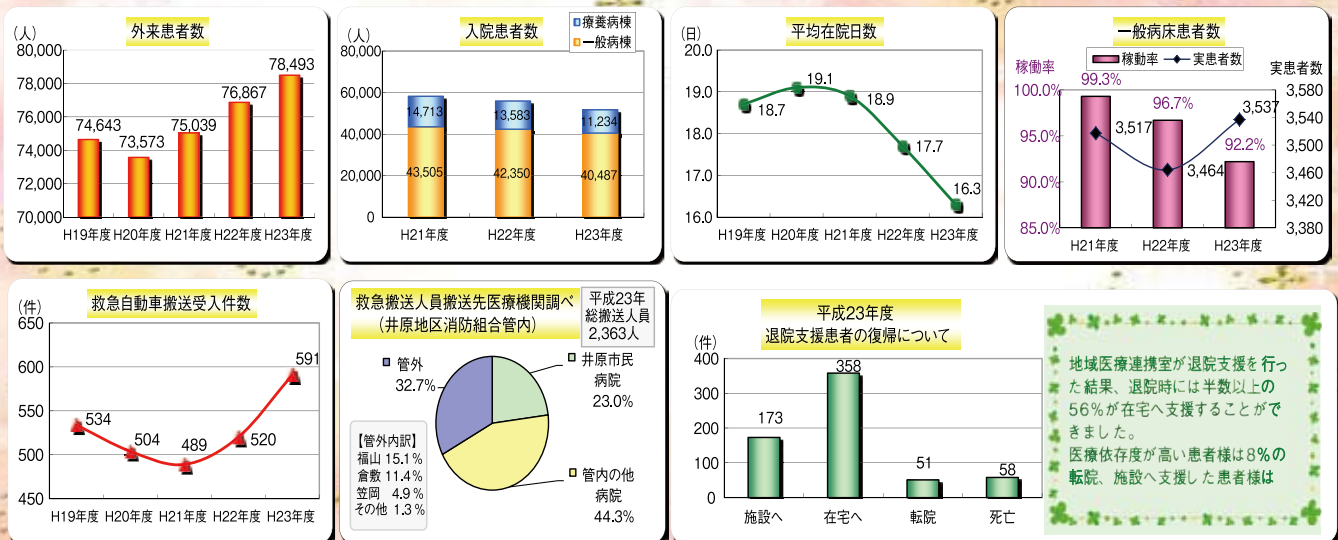
4月25日、23年度BSC発表会がありました。各部署の目標達成へのプロセス、苦心して取り組んだことに皆が傾聴し、他部署への理解を深めることができました。

24年度を迎え、今年度のスローガン「医療の標準化」「断らない病院」「ホスピタリティを高めよう」に向かって一歩を踏み出したいと思います。



平成23年度業務状況及び平成24年度予算概要

平成23年度 業務状況



平成24年度井原市病院事業会計当初予算概要

新年度事業の特色、新規事業等

- 平成24年度から訪問看護事業を開始します。
- 福山市民病院より隔週（第2第4木曜日）、循環器内科へ医師の派遣をいただいております。（平成24年1月より開始）
- 歯科衛生士（嘱託）を配置し入院患者様を中心とした口腔ケアを開始します。
- 医療を担う人材の育成と資質の向上を図るため、研究旅費、研究図書費に積極的な予算配分をしています。

収益的収支

(収益) 26億5,940万円
(費用) 26億5,940万円
(差引) 0万円

※平成7年度より赤字予算となっており、18年ぶりに収支同額の予算となりました。

【概要】

- 医療収益については、入院・外来とも単価の改善により1億1,500万円の増収を見込んでいます。
- 井原市よりの負担金及び補助金については、平成23年度に創設された新たな繰出基準「医師の派遣を受けることに要する経費」により1億5,000万円の増収を見込んでいます。
- 訪問看護事業を実施するための所要額（2,400万円）を計上しています。
- 医療従事者不足の中ではありますが、看護師、医療技術職員の充足に努めることとしているため、給与費は約1億円増加しています。

- 平成23年度に実施した経費削減の結果を反映し、材料費で600万円、光熱水費で500万円、委託料で800万円削減することができました。
- 平成24年度は診療・介護報酬の同時改定ですが、収益、費用への大きな影響は想定していません。

■診療報酬改定（本体）改定率 +1.38%
（各科改定率：内科 +1.55%、歯科 +1.70%、調剤 +0.46%）
■薬価改定等 改定率 ▲1.38%
薬価改定率 ▲1.26%（薬価ベース ▲6.00%）、材料改定率 ▲0.12%
（注）診療報酬本体と薬価改定等を併せた全体（ネット）の改定率は、+0.004%
■介護報酬改定 改定率 +1.2%（在宅 +1.0%、施設 +0.2%）

資本的収支

(資本的収入) 186,249千円
(資本的支出) 275,670千円
(差引) △89,421千円

【概要】

- 医療機器の購入については、新たに標榜した循環器内科（H22.12月開始）、麻酔科（H23.6月開始）で使用する機器類の購入、患者サービスの向上（診察時間短縮）のため、内視鏡システム、X線一般撮影装置を新たに追加導入します。また、訪問看護事業に係る車両2台を購入します。
- 工事費については、感染症に対応した診察室と待合室を新たに1階に整備します。

「看護の日・病院の日」

脳を鍛える脳体操



健康相談および勤続 15 年の職員表彰を行いました。

毎年恒例の健康測定では、身長・体重、体脂肪、血圧、検尿、血糖、足指力測定を、健康相談・健康指導では、生活指導・栄養指導を担当の看護師、栄養士が実施しました。

毎年 5 月 12 日は「看護の日」。そして 12 日を含む週が「看護週間」です。井原市民病院では、5 月 11 日（金）に「看護の日・病院の日」のイベントとして、健康測定・

もう一つの目玉、作業療法士による、「認知症予防。脳を鍛える脳体操―手足の指を動かすことで脳を活性化する―」座ったままで出来る「1 人じゃんけん・指体操など」実施しました。興味を持たれて参加した市民の方や職員たちも意外とむずかしいことに驚いていました。この体操は、どこにいても誰でも出来ます。日頃から、脳に刺激を与え、生活習慣を整え、いつまでも、イキイキした脳細胞を維持していきましょう。



平成 24 年度健康教室について

平成 24 年度の健康教室は右記のとおり行います。

開催日時 毎月第 4 水曜日
11 時 30 分～12 時
開催場所 玄関ロビー

平成 24 年 4 月～11 月までは『動脈硬化について』のテーマでおこないます。

	開催日	担 当	タイトル
第 49 回	4 月 25 日	医 師	動脈硬化について
第 50 回	5 月 23 日	看護部	脳梗塞の前ぶれ
第 51 回	6 月 27 日	栄養科	動脈硬化を予防する食事について
第 52 回	7 月 25 日	リハビリテーション科	動脈硬化と運動
第 53 回	8 月 22 日	薬剤科	
第 54 回	9 月 26 日	検査科	
第 55 回	10 月 24 日	放射線科	
第 56 回	11 月 28 日	視能訓練士	
第 57 回	1 月 23 日	言語聴覚士または歯科衛生士	
第 58 回	2 月 27 日	社会福祉士	
第 59 回	3 月 27 日	看護部（在宅）	

“ありがとう”っていい気持ち

あべ こうぞう

みなさんは一日に何べん“ありがとう”と言っていますか。また何べん言って貰ったり、聞いたりしているでしょうか。そして“ありがとう”と言ったら何とされていますか。“どう致しまして”とか“こちらこそ”とか“お互い様ですよ”とかではないでしょうか。では“ありがとう”をどんな気持ちで言っているのでしょうか。

“ありがとう”って いい気持ち

“ありがとう”とて言ったら / “こちらこそ ありがとう”と言われた / 言っても聞いても いい気持ち / “ありがとう”お礼の言葉 / “ありがとう”感謝の気持ち / “ありがとう”労いの気持ち / 何べん言っても いい気持ち / 何べん聞いても 温かい / 何べんでも ありがとう / ありがとう ありがとう ありがとう（詩あべ）

私は“ありがとう”には「お礼」「感謝」「労わり・労い」の気持ちがあると思っています。言い方一つで、また聞き方一つで お礼と感謝と労わりの気持ちの重さが変わってくるでしょう。“ありがとう”を言ったり聞いたりしてる時は大抵は明るい気持ちになっていて顔がほころんだり、笑い顔になっているでしょう。時には泣きながら言うこともあるでしょう、嬉し泣きと言うやつですね。たまにはふてくさったり、怒ったりしながら言うこともあるでしょう。場合によっては悲しく泣きながら言うこともあるでしょう。でもやはり“ありがとう”は明るい気持ちで言いたいですし、聞きたいですよ。ね。“ありがとう”は自分をやさしく、他人をしあわせにする言葉とある人が言いました。何でも自分で出来て、他人に頼らなくていい時代となって、“ありがとう”を言う機会が減っているように感じますが、みなさんどう感じられているのでしょうか。不便さや分からないことがあれば助けたり・助けられたりして、教えたり・教えられたりして“ありがとう”が言えるし、聞ける様にもなると思います。これがみんなの求める「絆」に繋がるのでしょうか。たった一言で自分も他人もいい気持ちにさせる言葉をもっと使いたいものですね。

Mission
(使 命)

地域住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する

Vision
(将来展望)

いつでも安心してかけられる、身近で愛される急性期病院

今年のスローガン

「医療の標準化」と「断らない病院」ホスピタリティー（思いやりの心）を高めよう